

# 研修会内容(平成26年度)

## ○会員研修プログラム

開催自治体:新潟県小千谷市

### ー10月16日 1日目(会員研修)ー

#### 【東日本大震災被災地からの報告】

「東日本大震災における仮設住宅居住者の生活再建支援」

宮城県仙台市 復興事業局生活再建推進室 主幹

西崎 文雄 氏

「大船渡市のいまと復興の課題」

岩手県大船渡市 副市長

角田 陽介 氏

#### 【新潟県中越大震災復興のあゆみ】

「新潟県中越大震災 小千谷市の復興のあゆみ」

復興計画策定から10年をふりかえって

進行 常葉大学大学院環境防災研究科 教授

田中 聡 氏

小千谷市 (策定担当)

渡邊 辰男 氏

(短期検証担当)

西脇 直樹 氏

(中期検証担当)

大矢 敏之 氏

(長期検証担当)

遠藤 孝司 氏

おぢや震災ミュージアムそなえ館見学

### ー10月17日 2日目(公開プログラム)ー

パネルディスカッション テーマ:小千谷市の記憶を東日本大震災に活かす

パネラー

釜石観光ボランティアガイド会 顧問

柏崎龍太郎 氏

美田園わかば幼稚園 園長

佐竹 悦子 氏

わかとち未来会議 代表

細金 剛 氏

コーディネーター

常葉大学大学院環境防災研究科 教授

重川希志依 氏

参加者数

・1日目:25団体 33名

・2日目:25団体 30名

小千谷市民 170名



開会の挨拶をする丸山会長



歓迎の挨拶をする谷井小千谷市長

# 会員研修 【東日本大震災被災地からの報告】

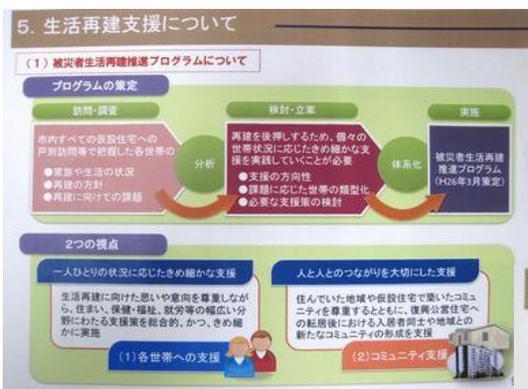
## 1. 「東日本大震災における

## 仮設住宅居住者の生活再建支援」

■ 宮城県仙台市 復興事業局生活再建推進室 主幹

西崎 文雄 氏

東日本大震災からの生活再建支援の取組として、現在も、7,000を超える仮設住宅入居世帯への再建支援の手法をご紹介いただきました。仙台市の仮設住宅のなかでも多くの割合を占める、民間賃貸住宅入居者への支援についての課題と取組についてご紹介いただきました。



## 2. 「大船渡市のいまと復興の課題」

■ 岩手県大船渡市 副市長

角田 陽介 氏

大船渡市の現状や復興に向けた取り組みと課題について説明いただきました。  
復興への取組について、駅周辺の区画整理、防災集団移転、被災跡地の再整備、災害危険区域の取り扱いなどの事例を紹介いただきました。

### 3) 大船渡市の復興に向けた取組



大船渡町中心部で嵩上げ工事が進む大船渡駅周辺整備事業

### 5) 復興に向けた課題

● 「平時のまちづくり」と「東日本大震災からの復興まちづくり」の大きな違い

- ・ 災害危険区域（居住制限）の存在
- ・ 本格的な住宅の移転を早期に進める必要があること
- ・ 集落全体が移転する可能性があること
- ・ 地盤沈下して冠水する土地の存在
- ・ 東日本大震災復興交付金や津波復興拠点整備事業などの新たな事業制度の存在

日刊岩手建設工業新聞～技術士の目～ H25.11.25 拙著より抜粋編集

これらの特徴を有して大規模に行われる「まちづくり」はほぼ過去に例がない！



### 3. 「新潟県中越大震災 小千谷市の復興のあゆみ」

■ 復興計画策定から10年をふりかえって

進行 常葉大学大学院社会環境防災研究科 教授 田中 聡 氏  
小千谷市

渡邊 辰男 氏、西脇 直樹 氏、大矢 敏之 氏、遠藤 孝司 氏

中越大震災からの小千谷市復興のプロセスについて、小千谷市復興推進委員会の委員長を務めた田中教授の進行のもと、復興計画の策定から短中長期における検証の各時点での状況を当時の担当者とともにふりかえりました。

定期的にデータを積み重ねて検証を行い、データを比較したうえで見えてくる状況から、復興の姿を照らし出した事例について紹介いただきました。



〔進行 田中教授〕



〔策定担当 渡邊氏〕



〔短期検証担当 西脇氏〕



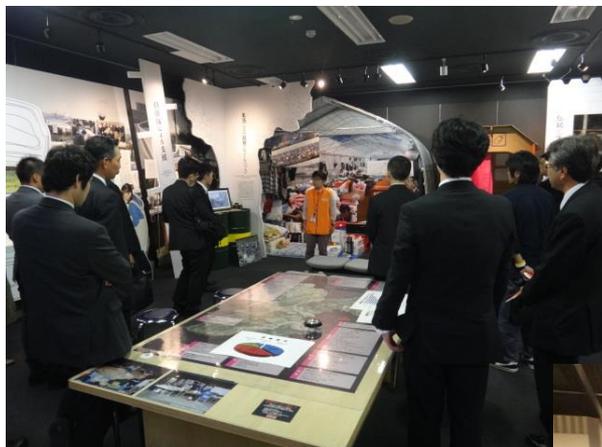
〔中期検証担当 大矢氏〕



〔長期検証担当 遠藤氏〕

## 4. 「おぢや震災ミュージアムそなえ館見学」

初日の研修会場に併設されているそなえ館を見学しました。中越大震災当時の状況や復旧・復興の様子についての展示、地震動シュミレータの体験、スタッフの説明から模擬的に震災の状況を実体験していただきました。



# 公開プログラム

## 5. パネルディスカッション

テーマ 小千谷市の記憶を東日本大震災に活かす

パネリスト 釜石観光ボランティアガイド会 顧問

美田園わかば幼稚園 園長

わかとち未来会議 代表

コーディネーター 常葉大学大学院環境防災研究科 教授

柏崎龍太郎 氏

佐竹悦子 氏

細金剛 氏

重川希志依 氏

中越大震災の経験と教訓がどのように東日本大震災へ活かされたかをテーマに、この2つの大きな災害を通じて災害に備えるために大切なこと、継承すべき教訓や地域コミュニティづくりの体験談などをパネラーの方からお話いただきました。

実際に被災された方の取組やどんな気持ちで頑張っているか、パネリストの熱意のこもったお話から、災害から再建しようとする大きなエネルギーの原動力を多くの傍聴者の方々には感じ取られていました。

# 5. パネルディスカッション

テーマ 小千谷市の記憶を東日本大震災に活かす

〔パネルディスカッションの様子〕



〔コーディネーター 重川希志依氏〕

〔佐竹悦子氏〕

津波に遭遇するも、一人の園児の命も亡くすことのなかった秘訣として、防災マニュアルを作りそれを訓練で検証して実情にあったものとする大切さをお話しいただきました。

また、震災を今の子供やお母さん達に伝えていく活動についても紹介いただきました。



〔柏崎龍太郎氏〕

震災前から津波防災に取り組んできたことで、津波から生き延びることができた経緯と地域主導で始めた避難所の運営、震災メモリアルパーク構想の立案など、釜石復興に取り組む事例についても紹介いただきました。

〔細金 剛氏〕

中越地震の被災を地域みんなで助け合い協力して乗り越えるため、地域の元気を出そうと仲間同士のワークショップで夢を語りあって始めた10年間の活動の経過、東日本大震災の南相馬被災者の避難受入れからの交流についてお話しいただきました。



パネラーの実体験に基づく話や災害に挫けず活動された体験談を、聴講者のみなさんは熱心に聞いておられました。

